

Topics 生きることは食べること

都会でこそ「農」を楽しもう！



昨年の野菜と花の品評会風景。区内産の野菜と花がずらっと並ぶ。

二〇二一年十二月発行

第二二号

大好き

みどり

やっぱり

今年で第63回目となる「野菜と花の品評会」

毎年11月末ごろ、京急蒲田駅前の大田区産業振興プラザ PiO 大展示室で「野菜と花の品評会」という農業振興イベントが開催されているのをご存じですか？ 実は今年で63回目の開催となる大変歴史あるイベントで、今年は12月4日に開催されます。

会場には大田区内の生産者（農家）で育てられたダイコン、ニンジン、コマツナなどの野菜や、カキ、カリンなどの果物、シクラメン、パンジーなどの苗や鉢花が並び、審査員による厳正な審査を受け、優秀な作物を作出した生産者が表彰されます。昨年度は、野菜類222点、花卉類27点、果実類67点の合計316点の作物が並びました。これらは、審査ののち一般公開され、午後には即売されます。新鮮な野菜や花を手に入れようと、毎年朝早くから、即売会に参加するための整理券を確保するために、大行列ができます。



品評会は、丹精こめて育てた作物のコンテスト。ここで表彰されることは、生産者にとってとても名誉なこと

区民参加による身近な「収穫祭」も併催

「野菜と花の品評会」と同時開催で、昨年度から始まったのが「区民参加による収穫祭」。大田区では農業を営む人や農地は年々減っていますが、庭やベランダ、区民農園などで土のふれあいや農の作業を楽しむ人はどんどん増えています。区民農園の応募倍率の高さから、「機会があったらやってみよう！」と思う人が多いことがわかります。

「収穫祭」は、農を楽しむ人とその風景をもっと身近に感じてもらい、そうした風景が増えることで、緑豊かで魅力あるまちに、という思いを伝える場として、区民活動団体の連携によって運営されています。2回目の今年は、実際に、区内にちょっと前まであった農の暮らしと風景を、生産者の方に昔がたりとしてお話しいただく「トークショー」も行います。



区民農園やベランダで育てられた野菜や花の展示

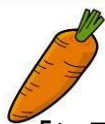
現代ならではの「農」の風景を広げたい

土に根を張る植物が、地球上に降り注ぐ太陽の光を私たちが摂取できるエネルギーに変換してくれることで、すべての動物が生きられます。タネが発芽と成長、交配を繰り返し、次代のタネへと命をつなぐのが「土」なのです。

そんな、土＝農地のある風景が、どんどん減ってきています。これまでの流れに何らかの大きな力をもって逆らえない限り、今後も大田区の「農地」は減ってしまいます。そんな流れの中で、たいせつな農地を守ってくださる方たちに感謝し、そんな営みを広く皆さんに伝えたい、という思いと、一人ひとりの小さな庭やベランダで、現代ならではの「農」の風景を広げたい、という願いから「収穫祭」をこれからも続けていきたいと思っています。



区民農園での収穫作業風景。（南馬込六丁目）



江戸東京野菜が静かなブーム！

「江戸東京野菜」とは？

江戸時代、参勤交代によって地方の人々が多く江戸のまちに暮らすことになり、その食生活を満たすために、地方の野菜が江戸の屋敷の畑でも作られるようになり、江戸の近郊ではまちに住む人たちの食を支える農地が増えました。江戸は豊かな田園都市だったのだそうです。

各地から野菜の種が持ってきては栽培され、味の良いものは品種改良が行われ、江戸の野菜として定着・発展していきました。また明治時代以降は、欧米や中国大陸からさまざまな新しい野菜がまず東京に移入され、品種改良を重ねたものが全国各地に紹介されました。

昭和40年代に入ると、こうした野菜たちは消費者の嗜好や生産・流通上の苦労もあり市場から姿を消しましたが、最近の野菜にはない独特の食味と香り・食感を持っており、地産地消の点からも、東京の伝統野菜「江戸東京野菜」として、脚光を浴びています。

高級レストランで、江戸東京野菜が食材として使われたり、各地の小学校で、栽培活動が幅広く展開されています。これらの陰に、江戸東京野菜研究の第一人者である大竹道茂先生の熱意あふれる指導と普及活動があります。その様子を日々更新される先生のブログをご覧ください。「江戸東京野菜通信」 <http://edoyasai.sblo.jp/>



←こんな小さいうちから下半分が白い「馬込半白胡瓜」

コロン、とした姿がとってもかわいい「馬込三寸人参」→



大田区由来の「江戸東京野菜」も！

実は大田区の地名「馬込」がその名についた江戸東京野菜が2種類あります。「馬込半白胡瓜」と「馬込三寸人参」です。南馬込にある大田区郷土博物館では、毎年夏に、プランターで馬込半白胡瓜が展示栽培されています。

南馬込六丁目区民農園では、共同区画で江戸東京野菜を栽培しています。馬込半白胡瓜は漬物に最適とのことで、農園のオープンデーで収穫し、その場で浅漬けにして皆さんとともに味わいました。江戸東京野菜を育て味わうことで、まちの魅力の再発見や郷土への愛着につなげたいと願っています。（牧野）

E加減 de エコライフ

～ダンボール堆肥にチャレンジ！～

昨年の「野菜と花の品評会」で大盛況だったミニ講座「ダンボール堆肥づくり」。講師を務めてくださいました「中野・コンポスト連絡会」のみなさんに、作り方とその魅力を詳しく伺ってきましたのでご紹介します。

ダンボール堆肥のつくり方

1. 材料・・・ダンボール箱（防水加工してない・35×30×30 cm程度のもの）・二重底用ダンボール・温度計・移植ゴテ・虫除けキャップ・基材（もみ殻くん炭 10ℓ・ココピート 15ℓ）
2. 下準備・・・箱にテーピング、底を2重にし、基材を直に入れてよく混ぜる。雨がからない日当たりの良い場所、風通しの良い台の上に設置。
3. 生ごみを混ぜ込む・・・1日500から800g程度。箱を傷つけないように混ぜる（空気を入れる）。温度計を中心に差し込み（15℃以上温かいのがすき）、箱のふたをして虫除けキャップをかぶせる。生ごみは、50kgくらいまで入れられます。
4. 熟成・・・ごみを入れる期間は3か月、その後週に1回程度水を入れて熟成。[大切なポイント]約1ヶ月間で、生ごみの形がほとんどなくなり、握って形になり、すぐくずれるようになれば完成。
5. 使う・保存・・・「土4:堆肥1」の割合で使う。少し乾かしてビニール袋で保存。

ダンボールコンポストの魅力・・・臭いが少ない・水分調整が簡単・初心者でも大丈夫・庭がなくてもできることから、手軽に誰でも取り組みます。

循環活動（循環生活）を楽しむ

燃えるごみの40%が生ごみだそうです。生ごみによる堆肥を作り、それを土に施すと良い土になり、土の中の生き物や植物を豊かにし、栄養がある土は元気な野菜や花を育て、おいしい食べ物や美しい風景として私たちに還ってくるという素敵な循環生活。生ごみは有効な資源なのです。

（取材・文：藤澤、荻野）



この方法は福岡県のNPO法人「循環型生活研究所」が研究開発したものです。中野・コンポスト連絡会は2008年に発足、その作り方と利用法の普及を行っています。すぐに始められる「スターターキット（資材一式）」も頒布販売しています。

<http://nakano-compost.org>

四季の庭から



小さなプランターで朝食のサンドイッチ用レタスを栽培、収穫しています！

ベランダで野菜を作ろう！

自分の手で育てた野菜を食べてみたいけど、庭がないから無理…と諦めないで！ 小さなプランターがひとつあれば、ベランダでも野菜を育てることができます。これからの季節でも、暖かいベランダならば少しの工夫で野菜を育てることができます。冬の間は、虫や病気の発生も少なく、初めての方でも取り組みやすいかも。「畑まで0秒！」のベランダ菜園に、あなたもチャレンジしてみませんか？



薬味野菜こそ、ベランダで。

【プランターの準備】

深さは 20cm以上あるものがよく、プランターの大きさは、栽培する野菜の種類によって異なりますが、標準的な大きさとして、50cm×15cmぐらいの大きさのものを用意すれば、いろいろな野菜が育てられます。

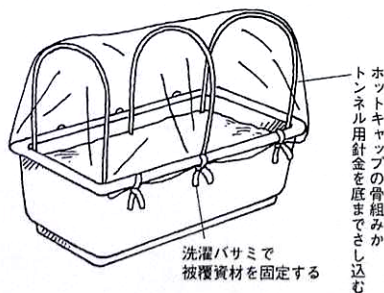
土は、野菜用の培養土を購入すると、手軽に始められます。さらに、培養土2に対して完熟堆肥1の割合で混ぜ、元肥として有機質の肥料もしくは、緩効性化成肥料を、土1リットルあたり3g混ぜます。

鉢の内側に保温用ポリ袋を敷いてから土を入れ、種をまきました。

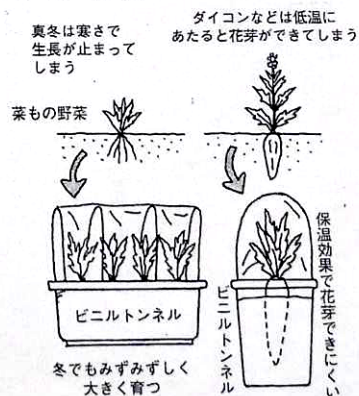


【冬のトンネル栽培にチャレンジ！】

最近ベランダ栽培用として開発された品種も多く出回っています。ダイコンの「ころ愛」という品種は根の長さが 20cm程度で、プランターでも十分育てられます。家庭用の 45Lゴミ袋を防寒用のビニールとして用いてトンネル栽培をすることで冬の間にもダイコンを育てることができます。タネは5粒くらいまき、発芽したら順次間引きをし最終的に1本にします。日なたで管理し、ポリ袋の口を結んで保温しながら育て、葉が大きくなったらポリ袋の口を開けます。約 90 日で収穫です。(指導:渡邊)



～冬はトンネル保温でみずみずしい葉に保てる(防寒)～



花とみどりの お気に入り♪

Book



菜園で野菜づくり！
主婦の友社 刊
1,180 円(税込)

武蔵野市に「むさしの農業ふれあい公園」という農業公園があります。市が農地を買い上げ、昔の農業の風景と暮らしを伝えるべく整備された公園です。この公園を、むさしの農業ふれあい村というNPO法人が管理運営をしており、多くの市民が学び楽しむ場としてにぎわっています。この本は、この公園で、実際に市民のボランティアが講師に指導を受けながら野菜を栽培している様子を通して、野菜の育て方をとても丁寧にやさしく解説しています。標準的な区民農園の広さで、実際にどんな風にどんな野菜をどれだけ育てることができるか、など、そのまゝ、すぐに使える知識がいっぱい！です。監修はおなじみの藤田智先生です。(牧野)

Shop



アグリス成城
フラワーショップ
世田谷区成城 5-1-1
Tel 03-3482-0831
<http://www.agris-seijo.jp/>

野菜苗の植え付けの季節には、多くのホームセンター店頭で野菜の苗が並びます。ポピュラーな野菜のタネや苗はどこでも入手できるようになりました。そこで、「ちょっと珍しい野菜を育ててみたい！」という方にオススメの店を紹介します。小田急線の線路上にある貸し農園「アグリス成城」のフロントも兼ねたお店で、野菜の苗やタネ、肥料やおしゃれな園芸資材のほか、花苗も取り扱っています。土地柄もあって価格は少々高めになりますが、ドキッとするような色や形の野菜のタネや苗を見ているとわくわくしてきて、育ててみたくなります。八百屋に100円で売っている、フツウの野菜よりも、ブランド野菜を育ててみたい方は、ぜひ行って見て！(牧野)

冬の活動予定



昨年のエコフェスタ。
今年はメニューも一新！



昨年環境フォーラムのようす。

◆12/4(日) 第63回大田区野菜と花の品評会&区民参加による収穫祭

(会場：大田区産業プラザP i O)

区内の農家の皆さんが作った野菜の展示と即売、区内の農業の紹介や区内で採れた野菜を使った料理の試食などを行います。

◆2/19(日) エコフェスタワンダーランド (会場：大田区立小池小学校)

押し葉、押し花を使って、自由に絵を描いてラミネートした押し花アートとダンボールフレームづくりをします。大人も子どもも楽しめます！

◆3/10(土) こんなまちに暮らしたい～環境フォーラム2012～

(会場：大田区民ホールアブリコ地下展示室)

環境に関する様々な活動紹介展示、明日からでもすぐに取り組めるエコで楽しいミニ講座、「こんなまちに暮らしたい」をテーマとして、大田区の魅力あるみどりを発見できるシンポジウムなど、盛りだくさんの一日です。

◆3/17(土) ベランダガーテニング講座 (会場：大田区役所本庁2階会議室)

大田区を身近なみどりでいっぱい！をテーマに、ベランダでできる野菜のプランター栽培についての講座を行います。野菜の種のプレゼントも！



About us...わたしたちについて...

大田・花とみどりのまちづくりの活動マップ

このマップの場所以外でも
◎保育園、児童館の花壇作り
◎特養の樹木の剪定
◎個人のお庭の手入れ
◎各種セミナー、イベント協力
◎学校の授業への協力
など幅広く活動しています

田園調布せせらぎ公園

・「花とみどりのつどい」を毎月第一日曜13時～15時開催。花やみどりが大好きな人たちの交流の場となっています。

区民プラザ前プランター

・管理活動：毎週木曜9時～四季折々、きれいな花を楽しめるように心がけています。

南久が原圃場

・管理活動：毎月第2・4金曜10時～12時
・地域に植えるための花苗を育てる活動もしています。

南馬込区民農園(2カ所)

・区民農園の整備・管理・運営
・毎月1回、オープンデーとして管理作業や勉強会を行っています。

大森駅前花壇

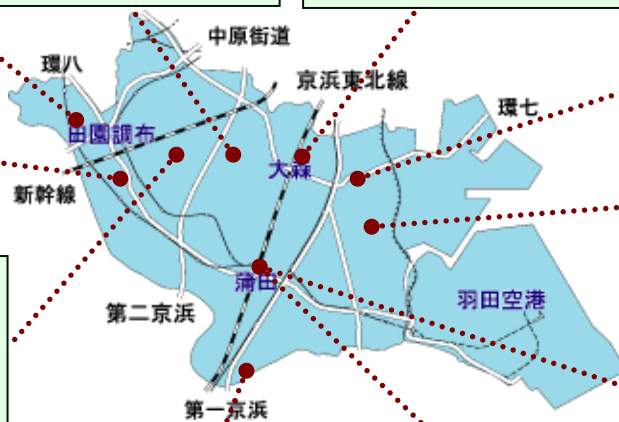
・管理活動：毎週火曜日
冬季：10時～(夏季：9時～)
・駅前だけでなく、バス通りや商店街にも花壇があります。

平和の森公園

・「街山プロジェクト」として、年間を通じて様々な活動をしています。観察会や勉強会も随時行っています。

大森南圃場

・管理活動：毎週水・金曜日9時～16時ほか
・保育園児のお散歩コースや地域の方たちの学びの場にもなっています。



六郷土手花壇

・管理活動：毎月最終日曜日10時～12時
・近隣町会の皆さんにもご協力をいただいています。

区役所本庁舎前プランター

・管理活動：蒲田駅前花壇の管理作業の後に実施
・区の玄関なので、常にきれいにと、張り切っています。

蒲田駅前花壇

・管理活動：毎週火曜日9時～
・駅前だけでなく、西口、東口のバス通りの花壇も管理しています。

お問合せは気軽に
03-3734-7932 まで

会員募集中！

大田区内のあらゆるところで活動しています。花やみどりに直接触れる活動はもちろん、みどりの活動を縁の下でサポートする事務作業や、運搬のための車の運転など、さまざまな活動があります。

特に運転手を大募集中！！

あなたもぜひ、参加してみませんか？体験入会も歓迎です。お問合せは右記事務局まで。⇒入会案内と最新の会員だよりをお届けします。

編集後記

大田区に暮らすようになって18年。引っ越してきたころはまだ、住まいの近くに畑が見られましたが、気がつくとそれらがどんどん駐車場や建物に変わってしまっています。かつての風景を取り戻すことは難しいので、身近にできる小さな「農」の暮らしをじわじわ広げたい、と思っています。(f)

発行：NPO法人 大田・花とみどりのまちづくり

〒144-0051 大田区西蒲田 7-24-7-203

tel & fax : 03-3734-7932

E-mail : npoogc@yahoo.co.jp

http://hanamidori.sakura.ne.jp/